

中世史研究 深化の要

□安倍氏の歴史的位置
について、きちんとした
根拠が必要。考古学の先
生方と議論し、「陸奥話
記」に出てくる安倍氏の
鳥海柵で間違いないと確
信し、発表した経過があ
る。

「陸奥話記」には12の
安倍氏の拠点が出てくる
が、今のところ確実に分
かっているのは鳥海柵だ
け。「ただ一つ分かって
いる」ということだけで
なく、安倍氏の拠点遺跡
でもある。安倍氏の拠点
の中でも重要な遺跡で
あるということが重要
だ。

□遺跡研究の意味と価
値
今から25年ほど前。平
泉町で柳之御所遺跡が発
掘された時に、10年ぐら
いかけて進められる見通
しだった奥州藤原氏に関
する研究が、2、3年の
うちに一気に進んだとい
う経験をした。

鳥海柵がどのような形
だったのか。かなり発掘
はされているが、まだ全
体が調査されたわけでは
ない。今後学術的に解明
していくに当たり、どう
いう構造かということに
非常に関心が持たれる。
それはなぜか。安倍氏
は、金ヶ崎町の安倍氏で
はなく、奥六郡の安倍
氏だけでもなくて、日本
史全体の中で捉えられる
べき存在だからだ。

日本の中世、武士の社
会を、鎌倉幕府源頼朝と
教科書に書いてある。し
かし、その頼朝が武家政
権を開くにあたって、ま
ず奥州藤原氏を打倒しな
ければならなかった。頼
朝自ら軍勢の先頭に立っ
て、鎌倉から馬に揺られ
て来て、福島県の阿津賀
志山の柵を抜き、そして
平泉に入って奥州藤原氏
を攻めた。

頼朝は、ただ攻め滅ぼ
しただけでなく、奥州平
泉の地に立つと、さらに
衣川など安倍氏の拠点
だったところを歩く。な
ぜか。武士の政権をどう
いう風に成り立たせるか
を学習するためだった。
鎌倉に帰ると、中尊寺

を見た成果として永福寺
という二階堂のお寺を建
てるなど、頼朝は武家政
権の先導としての奥州藤
原氏を研究した。
ところが、奥州藤原氏

の前史があり、その前史
が安倍氏であり清原氏
まり、安倍氏の鳥海柵跡
を研究するということ
は、武士の政権、武士の
社会、武士がつくり出し
た地域支配や地域社会の
構造を考える上で、非常
に重要なポイントにな
る。

鳥海柵の研究が進むと
いうことは、日本の中世
史研究を深化させるとい
うことにつながる。ただ
単に、この金ヶ崎地域の
11世紀の実態を明らかに
するということだけにと
どまらない。日本史全体
の中世史の問題なんだ。

11世紀は日本史の空白
の時代。貴族の社会から
武士の社会へと移ってい
く、その変わり目が安倍
氏の時代だったと言っ
て、その意味で、清原氏
の遺跡と並べて、まさに
前九年合戦の安倍氏・清
原氏が、源頼朝の鎌倉幕
府の前史として、これか
らますます重要な位置づ
けを与えられていくた
らう。

金ヶ崎の国指定史跡

鳥海柵を知る

— 町民大学2013 シンポジウムより —

4

大平 聡氏 (宮城学院女子大教授)

鳥海柵の時代 ①



胆沢城跡と鳥海柵跡の位置関係 (南から撮影の航空写真)

そのことを多くの方々
に知ってもらい、この遺
跡を訪れる人が増え、研
究が進んでいくことを
強く願っている。みなさ
まにも、全国の遺跡で
あるという目で鳥海柵を
眺め渡していただきたい。
(つづ)